

令和4年度
学校関係者評価 報告書

令和4年6月24日

学校関係者評価委員会

ホンダ テクニカル カレッジ 関東

1. はじめに

学校関係者評価とは、学校の自己評価の客観性・透明性を高め、学校と密接に関係する者の理解促進、連携協力による学校運営の改善を図ることを目的としています。具体的には、学校が策定した重点目標、計画の実施について自己評価を行い、その結果を踏まえ、今後の取組方針などについて、学校が選定した学校関係者評価委員に説明し、教育活動、学校運営等に係る課題を共有し、今後の方向性等に対する助言、評価等を頂くことで学校改善につなげることを目指しています。

学校法人ホンダ学園 ホンダ テクニカル カレッジ 関東（以下、ホンダ学園 関東校）においては、平成 26 年 10 月に学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を発足させ、令和 4 年度は、学校関係者評価委員会を 2 回開催、教育編成委員会を 2 回開催する中で、委員の皆様から幅広い意見、助言、評価を頂きました。その結果を本報告書にまとめ、今後の教育内容や学校運営等の改善を図ってまいります。

2. 令和 4 年度 学校関係者評価委員会 開催概要

- ・日時：令和 4 年 5 月 20 日（第 1 回委員会） 令和 4 年 6 月 24 日（第 2 回委員会）
- ・場所：ホンダ学園 関東校 第 1・第 2 会議室

・評価委員	関谷 雅裕（委員長）（株）ホンダカーズ埼玉 管理本部 部長 経営企画部 部長
	森山 吉樹（株）オートテックジャパン 管理本部 人事部 部長
	金子 明 ふじみ野市役所 総合政策部 部長
	木村 一年 本田技研工業（株） 日本本部 地域人事部 主幹
	鈴木 伸夫 ホンダ学園 関東校 後援会 会長
・学校側出席者	勝田 啓輔 ホンダ学園 関東校 校長（教頭兼務）
	達富 由樹 教務部 部長
	山本 桂太郎 学務室 室長
	嶋 健司 サービスエンジニア 1 課 課長
	中野 健二 サービスエンジニア 2 課 課長
	奥 浩一 開発エンジニア課 課長
	熊原 文人 教務部 教務管理グループリーダー
	山田 和宏 学務室 管理グループリーダー

【学校関係者評価委員会 会議次第】

<第 1 回委員会>

- ・委員長挨拶
- ・校長挨拶
- ・関東校の教育現場確認
- ・令和 3 年度 学校方針に基づく運営実績報告
- ・令和 3 年度 自己点検・自己評価報告書の説明
- ・質疑応答
- ・今後の展開について

<第 2 回委員会>

- ・委員長挨拶
- ・校長挨拶
- ・第 1 回委員会議事録の確認、共有
- ・各委員からの質問/提言/評価への回答
- ・教育課程編成委員会 結果の報告
- ・委員会評価まとめ
- ・今後のスケジュール

3. 令和4年度 教育課程編成委員会 開催概要

・日時：令和4年5月26日（第1回委員会） 令和4年6月17日（第2回委員会）

・場所：ホンダ学園 関東校 第1・第2会議室

・評価委員	中妻 茂	一般社団法人 埼玉県自動車整備振興会 事業教育部 部長代理
	富田 英則	(株) ホンダカーズ久喜 代表取締役社長
	中村 純一	(株) ホンダプロモーション (ホンダカーズ川越) 統括部長
	田中 和弘	八千代工業 株式会社 執行役員 管理本部副部長 総務部 部長
	勝田 啓輔 (委員長)	ホンダ学園 関東校 校長 (教頭兼務)
・学校側出席者	達富 由樹	教務部 部長
	山本 桂太郎	学務室 室長
	嶋 健司	サービスエンジニア1課 課長
	中野 健二	サービスエンジニア2課 課長
	奥 浩一	開発エンジニア課 課長
	熊原 文人	教務部 教務管理グループリーダー

【教育課程編成委員会 会議次第】

<第1回委員会>

- ・教務部組織変更の報告
- ・新委員紹介
- ・委員長挨拶
- ・令和3年度 委員会指摘/提言に対する推進結果
- ・令和3年度 教務部実績の報告
- ・令和4年度 新学科発足の報告
- ・質疑応答
- ・今後の予定

<第2回委員会>

- ・委員長挨拶
- ・関東校の教育現場確認
- ・令和4年度 第1回委員会の指摘/提言の回答
- ・令和4年度 教務活動計画
- ・質疑応答
- ・今後の予定

4. 令和4年度 学校関係者評価委員会の評価まとめ

最初に学校側より、学園概要、教育内容、令和3年度の重点課題、重点目標を説明し、本委員会における課題共有を図りました。その後、令和3年度の自己点検・自己評価報告書による評価結果の説明を行い、質疑応答を通して意見交換を行い、更に詳細に課題認識を深めました。

第2回委員会に向けて各委員の皆様から さらに質問、提言、評価をいただいた上で、学校側より回答説明を行い、質疑応答及び意見交換を図り、学校関係者評価委員会として最終評価をまとめました。

令和3年度 自己点検・自己評価報告書 各基準ごとの評価結果を以下に報告します。

基準 1：教育理念・目的・育成人材像等

「建学の志」は揺るぎなく、すべての学校関係者に受け継がれています。教員も志高く、ホンダの環境で育つ学生も誇りを持ち生き活きとじていると感じます。「世界に歓迎される人間の育成」や「チャレンジ精神」などホンダらしさに溢れた素晴らしい教育理念と方針が明確に定められ、教職員はもとよりカレッジガイドやシラバス等によって学生や外部にも広く周知されているものと確認しました。今後においても本教育理念、育成方針を貫き、世界に歓迎され、また、社会に歓迎される人材育成をお願いします。

尚、販社の評価基準が2年ほど前に改定があり、ホンダの基本理念をもとに評価する傾向が強くなったと認識しております。よって、学校においてもホンダフィロソフィー教育など、さらに力を入れた教育をお願いします。

基準 2：学校運営

学校運営方針に基づいて計画を立て、様々な取り組みが展開されています。常に新しい施策が求められる状況の中で、円滑に授業運営ができる教案や指導要領にて教職員の負担を下げることや、教務方針を反映したカリキュラムづくりができる体制の構築に取り組んでいることを確認しました。

特に、教職員の採用においては、本田技研工業(株)と連携し、経験豊富な人材登用がなされています。これら取り組みにより、高い教育水準が保たれていることは「選ばれる」ために大変重要なことですので、引き続き教育の質の向上への取り組みをお願いします。

また、新型コロナウイルス感染リスクへの問題に対し、厳しい学校運営であったと推測します。その状況の中で、学園として出来る最大限のリスク対策を検討され、リモート学習も適宜に取り入れるなど状況に応じた適切な対策が実行されたことは、教職員、学生、関係社員の皆様の連携によるものと評価します。

基準 3：教育活動

教育課程編成委員会からの提言を取り入れたカリキュラムの編成は、学内に留まることなく、業界のニーズをしっかりと汲み取っており評価に値します。新機構、新技術などに対応したカリキュラムの見直しに取り組んでおり、技術のみに留まらず接客事務や安全運転などキャリア教育にも力をかけています。学業だけでなくマインド面の教育にも注力していることは、質の良い教育につながっていると考えます

また、開発・設計工学コースにおいては、自動車力学を含む基本技術に加え、開発・設計の実践カリキュラムを充実し「企画能力」「課題対応力」を習得させており、とても良い教育活動であると評価します。特に「課題対応力」は企業にとって即戦力として期待できるスキルであり、今後もカリキュラムの充実を期待します。

基準 4：教育成果

資格取得については、不合格者が出たことは残念な結果です。不合格者の及ばなかった分野や要因の分析、改善策など詳細に検討されていますので、引き続き取り組みを強化し、資格取得率 100%を目指して、それぞれの生徒に応じたきめ細かな対応をお願いします。

就職率内定率は100%を維持していますが、第一希望内定率の向上を目指してください。学生が就職を希望する企業が何を求めているか先読みして将来求められる人材の育成を行い、高い位置づけでの「選ばれる学園の確立」を目指してください。

退学率については、ある程度仕方のないところは理解します。退学率の抑制はホンダ学園で学ぶにふさわしい意欲のある学生の獲得と、学生の学びと成績に応じた転科アドバイスが必要であることを理解しました。

基準 5：学生支援

就職や健康管理、メンタルヘルスなど支援体制は充実しております。特に課外活動は大変活発に行われており、学生が楽しく取り組んで成果に結びついている事も教職員の努力の成果です。また、授業内容はもとより、教育施設や部・同好会活動などについても在校生への満足度調査を継続的に実施し、課題解決へ取り組ん

でいることも評価できます。今後も学生一人ひとりの持ち味を理解され人間力向上へのフォローをお願いします。

尚、入学希望学生を経済面で修学サポートするために、奨学金制度の高校への PR や認知度 UP への取り組みを強化してください。

基準 6：教育環境

メーカー校の強みを活かし最新の設備等を活用した実践的な教育が行われています。施設、設備の更新も計画的に実施され、また、付帯施設（図書館、食堂、クラブハウス、体育館等）も充実しており、申し分ありません。特にコロナ禍での感染予防策が徹底されており、安心した学園生活を送ることができています。

今後は、変化の多い社会環境の中で、EV 教育や水素エネルギー教育など継続的に環境整備の強化をお願いします。また、外部では新たな企業との提携などが進められています。他業種との交流から人材育成環境の情報も取り入れ、世界に誇れる教育環境で良い人材育成をお願いします。

基準 7：学生募集と受け入れ

コロナ禍の状況下でリアルな学生の募集活動ができない状況でしたが、WEB オープンキャンパスを実施頂く等、募集活動に係る教職員の対応を評価します。学生の募集については、多くの活動を展開されていると思います。外部環境の影響で難しい状況にありますので、これからの方向性を明確にして進めていく必要があると考えます。

また、地元高校に対する学生募集取り組みは、各ホンダ関連会社との連携が重要なので、情報共有・共同活動の取り組みをお願いします

ホンダ学園＝整備士の育成学校というイメージが多く聞かれます。整備士の資格取得を目標に勉強する方はもちろん、学園でしか学べない他に誇れる知識や経験を得る場として、入学志望者へ紹介をお願いします。

基準 8：財務

財務状況は財務諸表のみならず、事業実績も含めてホームページで公表されており、また外部監査人による監査も実施されており、透明性の高いものとなっています。事業活動収支均衡、自己資金による学校運営は持続可能な学園運営のためには必要なことと考えます。学生確保のための PR 活動費用も削減することなく、学生や保護者のニーズを的確に捉えながら、新技術の教育資料充実のためにも学校運営の健全化を徹底的に強化してください。

基準 9：法令等の遵守

コンプライアンスの問題を重要視されており、問題はないことを確認しました。特に近年では、個人情報保護の徹底が求められています。ひとたび問題を起こすと当事者への影響はもちろん、その信頼回復には多くの時間と多くのコストなどが必要となります。引き続き、教育現場として十分個人情報保護の対策を講じ学校運営を進めてください。

整備士に関わる法令教育が実施され順守されていることを理解します。安全には法令も多く、特に最近では化学物質の取り扱い法令にも多くの変化点があります。部室の化学物質管理状況は改善すべきです。学園で基礎となるルールを作り安全教育を実施して、「安全な作業が出来る環境と人づくり」の強化をお願いします。

基準 10：社会貢献

近隣地域を中心とした様々な側面での社会貢献活動が実践されています。学園一丸となって、学園周辺の清掃や安全衛生委員会での定期的巡回など地域活動を積極的に実施していただいております。教職員や学生の皆さまの社会貢献度は非常に大きなものと認識しています。また、小中学校の体験学習等を積極的に受け入れていることは、将来のサービス人材確保に繋がる有効な取り組みであると考えます。ホンダ学園が地元に対してどんな還元ができるのか、引き続き地元に着目した社会貢献活動の継続をお願いします。

5. 令和4年度 学校関係者評価委員会の総括

令和4年度の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会において、様々な意見や提言をもとに評価しました。その評価結果の要点を以下に明記します。

- 学園の教育理念、育成方針を貫き、世界に歓迎され、また、社会に歓迎される人材育成をお願いします。
- 教育課程編成委員会からの提言を取り入れたカリキュラムの編成は、学内に留まることなく、業界のニーズをしっかりと汲み取っており評価に値します。
- 資格取得については、不合格者が出たことは残念な結果ですが、引き続き取り組みを強化し資格取得率100%を目指してください。
- 就職率内定率は100%を維持していますが、学生のチャレンジ希望とマッチングさせながら、第一希望内定率の向上を目指してください。
- 就職や健康管理、メンタルヘルスなど支援体制は充実しております。特に課外活動は大変活発に行われており、今後も学生一人ひとりの持ち味を理解され人間力向上へのフォローをお願いします。
- 最新の設備等を活用した実践的な教育が行われています。施設、設備の更新も計画的に実施されており、付帯施設（図書館、食堂、クラブハウス、体育館等）も充実しており、申し分ありません。
- 変化の多い社会環境の中で、EV教育や水素エネルギー教育など継続的に環境整備の強化をお願いします。
- ホンダ学園＝整備士の育成学校というイメージが多く聞かれます。整備士の資格取得を目標に勉強する方はもちろん、学園でしか学べない他に誇れる知識や経験を得る場として、入学志望者へ紹介をお願いします。
- 財務状況は財務諸表のみならず、事業実績も含めてホームページで公表されており、また外部監査人による監査も実施されており、透明性の高いものとなっています。
- コンプライアンスの問題を重要視されており、問題はないことを確認しました。
- 引き続き、地元に着した社会貢献活動の継続をお願いします。

今期から3学科体制となり、各学科の一気通貫教育が強化されました。学生の学びを最優先に、生活面や経済面でのサポートも充実させながら、未来へ向けた新技術教育も取り入れて、より一層の質の高い教育を施すことで、「世界に歓迎される人間の育成」に努めてください。

以上